

レボリューション！女性教員養成神戸スタイル

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：神戸大学（総括責任者：武田 廣）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画

本学独自の育成研究員も対象として、新規養成女性教員を女性枠により公募で 21 名以上（准教授、講師、助教）理工農学系研究科に採用し、採用した研究科にインセンティブとして採用者 1 名に対して 1 名の助教を学内経費により措置する（任期 5 年間）。「女性研究者養成システム改革戦略会議」にて、採用計画の実効性を担保する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容

新規養成女性教員に 1 年目にスタートアップ研究費を、2、3 年目に研究費を支給、メンター 2 名（研究、ライフ）を配置、理工農学系のすべての女性教員に研究スキルアップ経費を補助、全学の子育て中の女性研究者に研究支援員を配置する。すべての女性研究者を対象に「神戸キャリアアップカフェ」を、女子学生を対象に「学生向きキャリアカフェ」を開催する。

(3) 期待される効果

理工農学系の女性教員の採用と昇進の増加。博士後期課程に進学する女子学生の増加。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者支援システム改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	s

A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性枠による教員公募、インセンティブ助教制度（One+one 制度）、育成研究員制度を 3 つの柱として理・工・農学系分野の女性教員を倍増させており評価できる。執行部を中心に全学として事業に取り組み、適切に計画を推進し、女性教員の研究力強化、大学院博士課程（後期）女子学生比率の向上と、上位職階の増加と若手の養成の両面に配慮しつつ成果を上げており評価できる。

- ・ **目標達成度**：新規養成女性研究者の採用については所期の目標を達成し、加えて機関独自に女性教員を採用したことにより目標を上回る女性教員の採用を進めたことは評価できる。女性研究者比率も所期の目標を概ね達成した。
- ・ **女性研究者支援システム改革**：女性枠による教員公募、インセンティブ助教制度、育成研究員制度を導入することにより優れた女性教員採用システムを構築したこと、また、女性研究者養成システム改革戦略会議が、各研究科における新規養成女性研究者、インセンティブ助教、育

成研究員の選考結果をチェックする体制を構築したことは評価できる。

- **取組の内容**：女性教員採用部局にインセンティブ助教1人を措置する「One+one 制度」、女性研究者が特に少ない部局に導入された「育成研究員制度」、研究メンターとライフメンターの配置、学生向けキャリアカフェの開催等は効果的な取組であり評価できる。
- **実施体制**：教育研究評議会、女性研究者養成システム改革戦略会議など、本事業の意思決定に関わる機関はすべて学長に直結しており、総括責任者である学長のガバナンスが十分に機能する体制であったことは評価できる。
- **今後の進め方**：教育研究評議会で本事業の継続を決定し、取組の対象部局の拡大とともに、理系女性研究者比率については、今後の具体的な目標を掲げていることは高く評価できる。今後も女性研究者の採用・育成に向けて、地域の中心となる機関としてリーダーシップを発揮することを期待する。